

阿蘇山

概 況

火山活動は、やや活発な状態でした。

29 日から B 型地震が増加しました。孤立型微動は、2 月から少ない状態でしたが、やや増加傾向に転じました。

湯だまりの量は減少傾向にあり、湯だまり中央部での噴湯現象も継続しています。また、南側火口壁下の赤熱現象も継続するなど、湯だまり、南側火口壁下ともに温度の高い状態でした。

噴煙活動の状況

噴煙は白色・少量、噴煙高度の最高は 500m(5 月：500m)で、特に異常は認められませんでした(図 1、図 7)。

地震・微動活動の状況

29 日 10 時頃から体に感じない微小な B 型地震が増加し、29 日の日回数は 23 回、30 日は 114 回で、月回数は 260 回(5 月：76 回)でした(図 4、図 12)。なお、B 型地震の増加は、2002 年 11 月中～下旬(うち日回数が最多だったのは 11 月 20 日の 111 回)以来です。A 型地震の月回数は 32 回(5 月：17 回)と少ない状態でした(図 3、図 10)。火山性地震の震源は、おもに中岳第一火口付近でした。(図 15)。

孤立型微動は、2 月から少ない状態でしたが、6 月の月回数は、167 回(5 月：71 回)とやや増加しました(図 2、図 8)。

火口や噴気地帯の状況

火口底は、1993 年 7 月から全面湯だまりの状態が続いていましたが、3 日の現地観測で湯量が 9 割に減少しているのを確認しました。また、湯だまり中央部での噴湯現象は 5 月 21 日以降続いています。

湯だまりの温度は、3 日 74 、6 日 72 、20 日 69 、26 日 70 と依然として高い状態が続いています。また、2000 年 11 月 29 日から南側火口壁下の赤熱現象も継続しており、湯だまりの温度と同様、高い状態にあります(図 5、図 6)。

(温度測定は、赤外放射温度計による)

地殻変動活動の状況

GPS による地殻変動観測では、草千里 - 砂千里浜、草千里 - 仙酔峡、砂千里浜 - 仙酔峡の各観測点間の基線長には火山活動に起因する変化はありませんでした(図 16)。

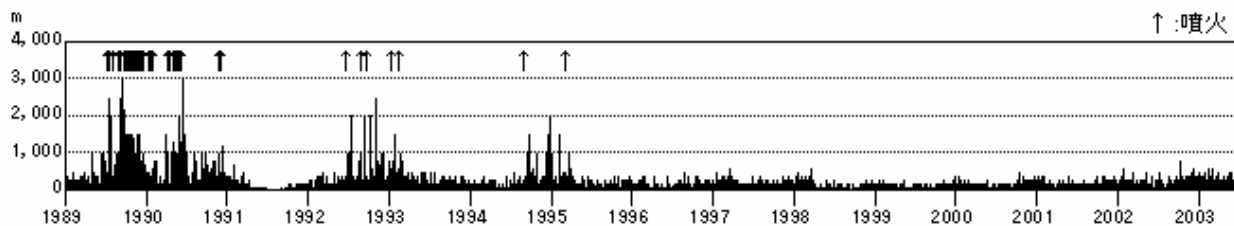


図1 日別噴煙最高高度(1989年1月～2003年6月)

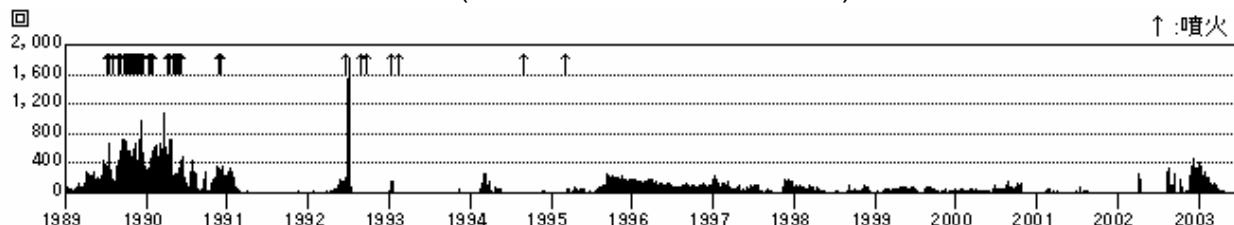


図2 孤立型微動の日別回数(1989年1月～2003年6月)

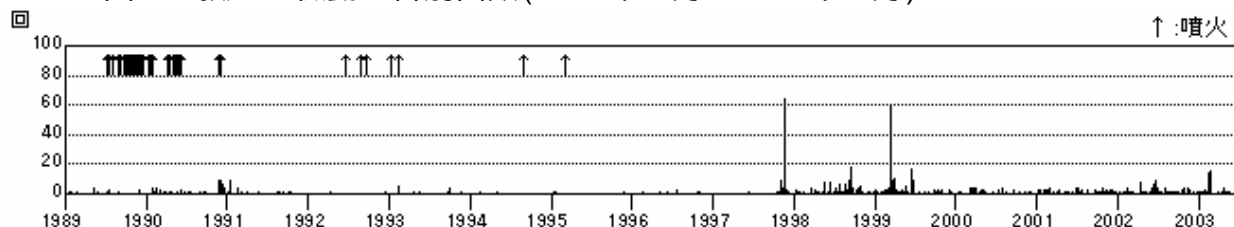


図3 A型地震の日別回数(1989年1月～2003年6月)

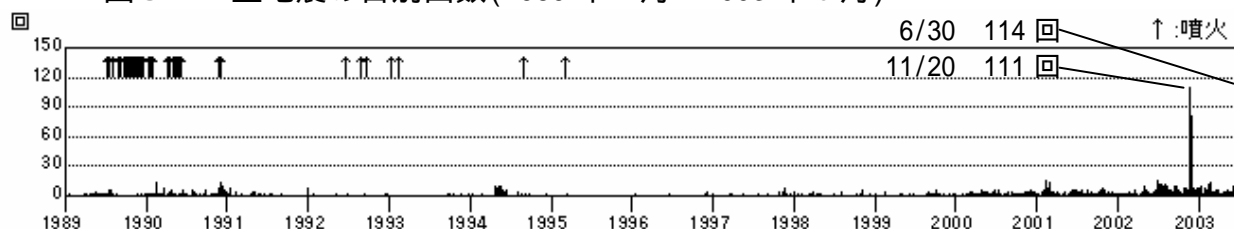


図4 B型地震の日別回数(1989年1月～2003年6月) ←→ 湯だまり消失

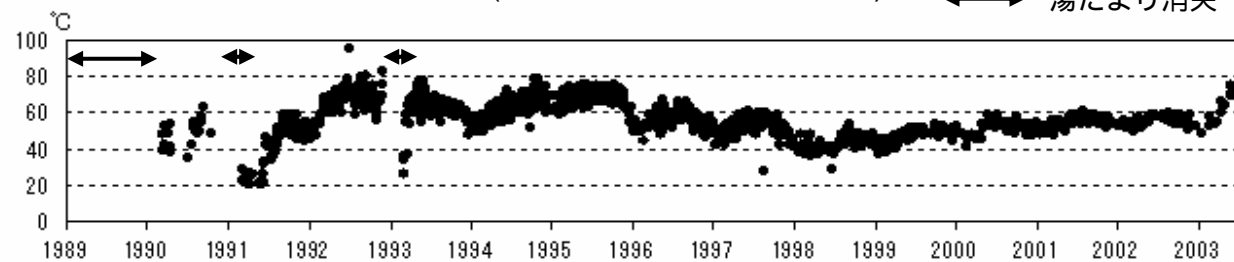


図5 湯だまりの温度(1989年1月～2003年6月)

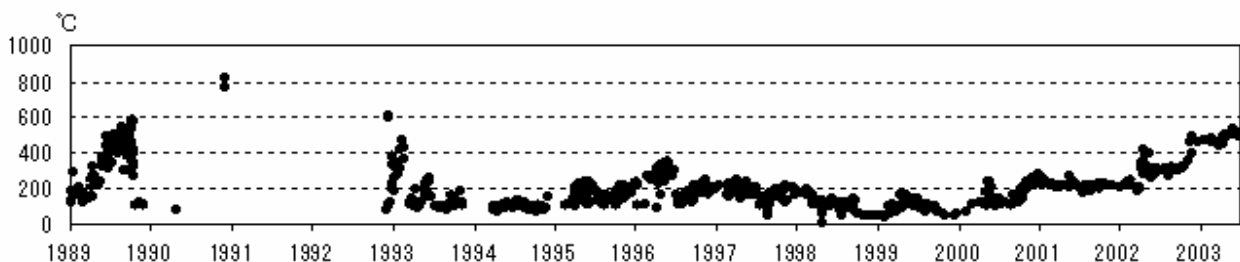


図6 火口底(壁)の温度(1989年1月～2003年6月)

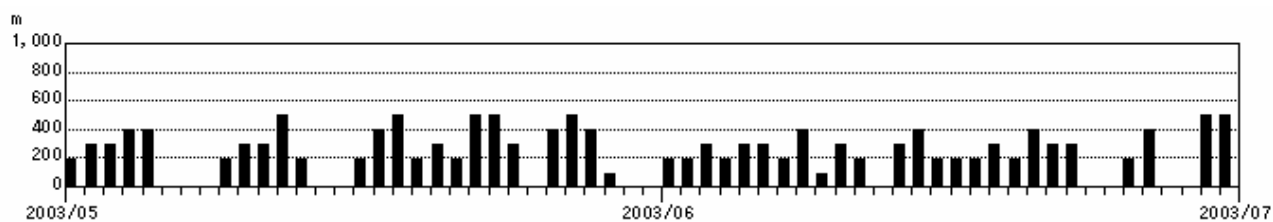


図7 日別噴煙最高高度(2003年5月1日～6月30日)

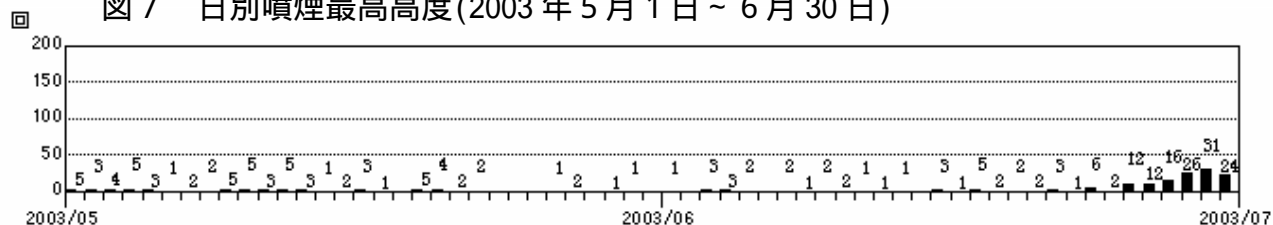


図8 孤立型微動の日別回数(2003年5月1日～6月30日)

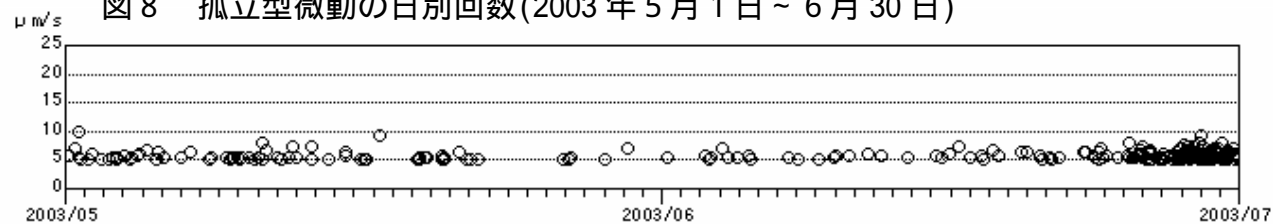


図9 孤立型微動の最大振幅(A点南北動)(2003年5月1日～6月30日)



図10 A型地震の日別回数(2003年5月1日～6月30日)

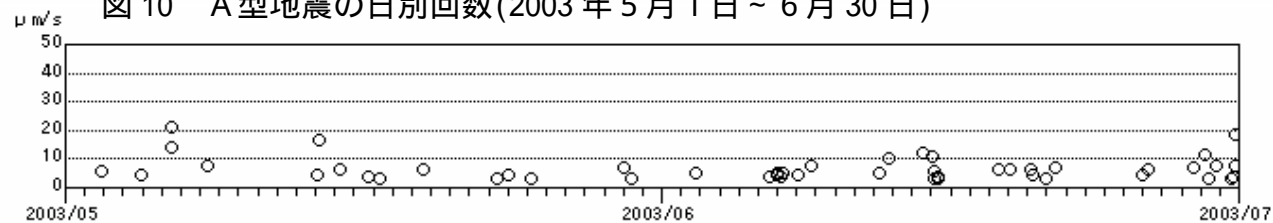


図11 A型地震の最大振幅(A点上下動)(2003年5月1日～6月30日)



図12 B型地震の日別回数(2003年5月1日～6月30日)

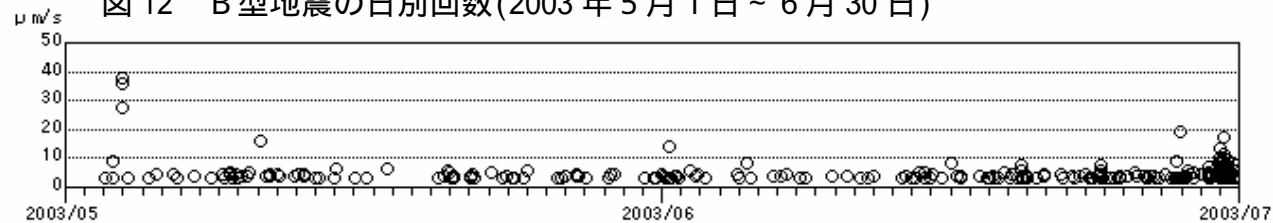


図13 B型地震の最大振幅(A点上下動)(2003年5月1日～6月30日)

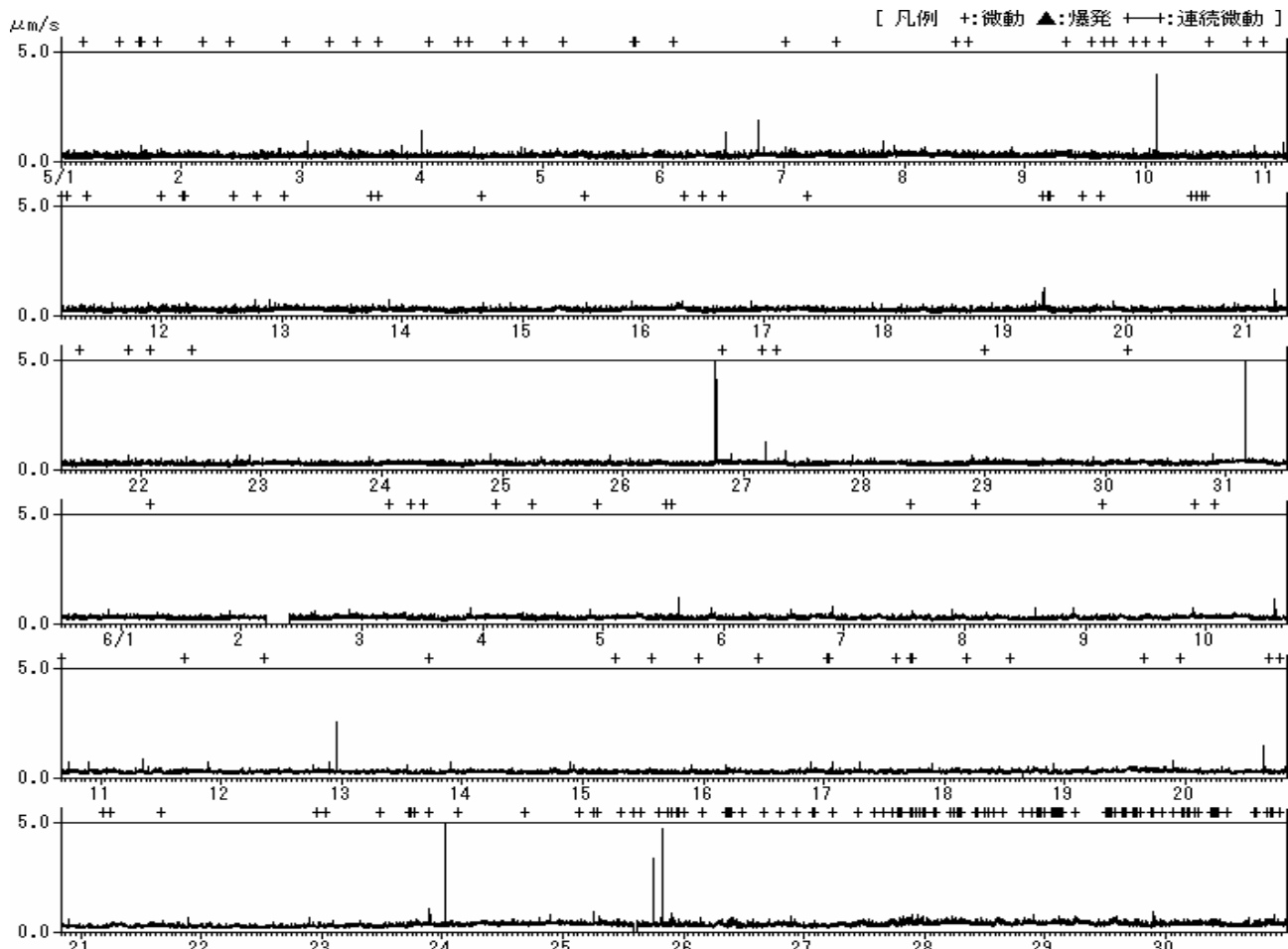


図 14 1 分間平均振幅の時間変化 (A 点上下動) (2003 年 5 月 1 日 ~ 6 月 30 日)

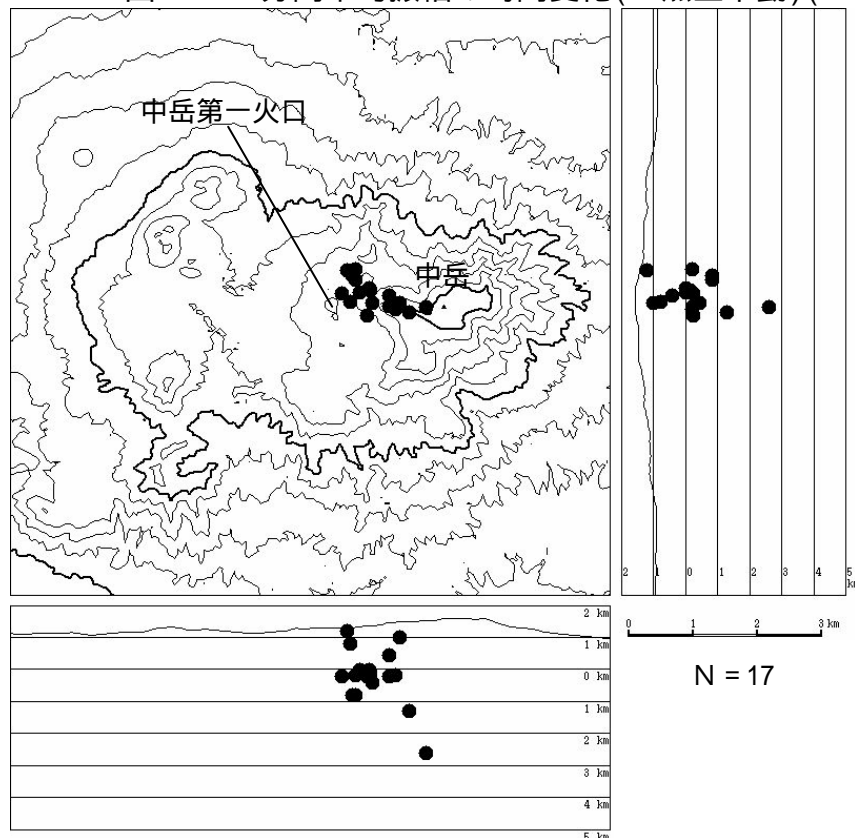


図 15 火山性地震の震源分布(2003 年 6 月 1 日 ~ 30 日)

阿蘇山

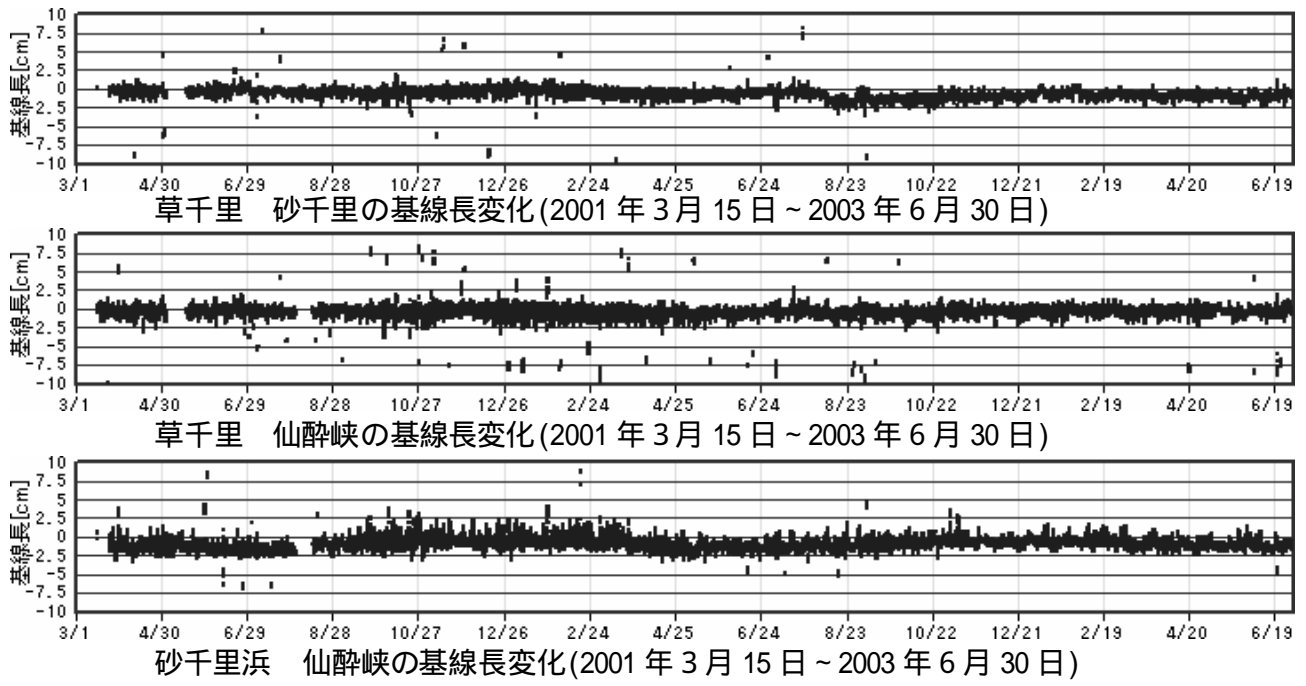


図 16 GPS による基線長変化

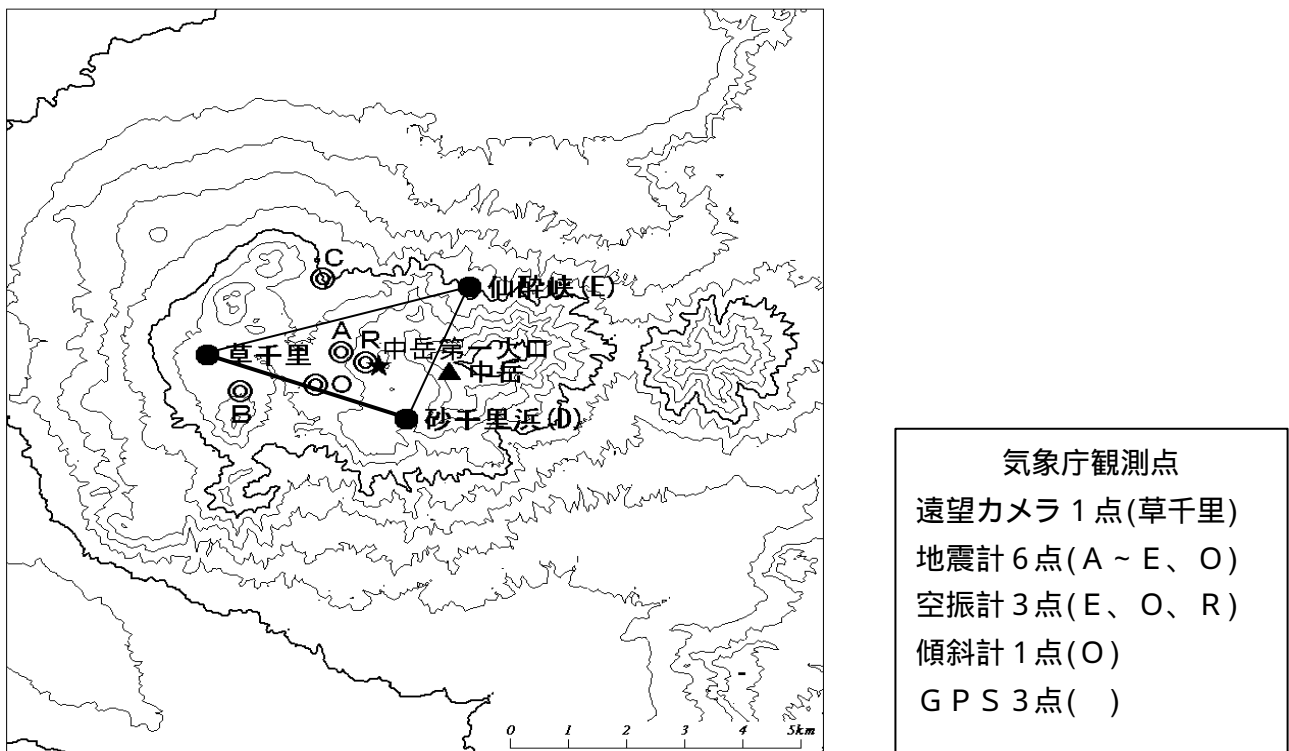


図 17 観測点位置図